

子宮頸がん検診における受診率および検査精度の向上に関する研究（平成 23～24 年度）

子宮頸がん検診受診率向上を目指した若い女性の意識に関する検討

ーフォーカスグループインタビュー法による質的分析ー

田中貴子 村山力則 齊藤志保子

秋田県では平成 20 年 4 月に「秋田県がん対策推進計画」をスタートさせ、行政、県民、関係団体等が一体となって、がん予防のための啓発普及、早期発見体制の強化等を推進してきている。このような中で当センターでは、子宮頸がんを取り上げ、本県の子宮頸がん検診受診率向上のためにフォーカスグループインタビュー法を用いて、若い女性の子宮頸がん検診に関する意識調査を行った。今回、子育てママ、会社員、大学生の 3 グループを対象に調査を実施した。その結果、集団検診を受けたいという希望が 3 グループともに多かった。また、子宮頸がん及び子宮頸がん検診について知らないという人が会社員や大学生では多かった。早期からの健康教育の重要性については、3 グループともに同様の意見を述べていた。無料クーポン券については子育てママ層では好評であるものの、会社員、大学生での利用は不十分であった。今後は、集団検診及び医療機関検診の充実を図り、若い女性が受診しやすい、時代に合わせた検診の社会環境を整えていくことが必要と考えられた。また、早期からの健康教育が重要であり、若い女性に関心を持ち受診行動につながる啓発普及及び広報の強化を推進していくことが大切である。更に無料クーポン券により健康意識の醸成を図り、その確実な利用につなげることが大切であると考えられた。

1. はじめに

秋田県の平成 23 年の死亡状況をみると、悪性新生物（以下、がん）による死亡が 4,044 人と最も多く、その死亡率 377.2（人口 10 万対）は、全国の 283.2 よりかなり高い状況にある¹⁾。本県では平成 20 年 4 月に「秋田県がん対策推進計画」をスタートさせ、行政、県民、関係団体等が一体となって、がん予防のための啓発普及、がん検診受診率の向上、がん医療・相談支援体制の充実等の総合的ながん対策に取り組んできている²⁾。また、がん検診推進事業では、国が目指すがん検診受診率 50% の達成³⁾ を目標とし、各市町村から無料クーポン券を送付し受診の促進を図る等の取り組みが行われている。

国立がん研究センターがん対策情報センターの統計によると、近年日本における子宮頸がんの罹患率は 20 歳代後半から 30 歳代後半でピークを迎えている⁴⁾。子宮頸がんの罹患要因にヒトパピローマウイルス（HPV）の感染があげられ、性交経験の低年齢化に伴い 20 歳代の発症率の上昇が問題になっている⁵⁾。このことから、厚生労働省は 2004 年 4 月に子宮頸がん検診の開始時期を 20 歳に引き下げて、定期的な受診の必要性

を謳っている⁶⁾。検診率をみると、日本では子宮頸がん検診の受診率が 23.7% と、欧米欧州諸国（70～80% 以上）と比較して低い状況にある⁷⁾。

欧州では 10 代の頃からかかりつけの産婦人科医がいて、その医師や母親が女性の健康教育に重要な役割を果たしており、性交体験の有無に関わらず、検診を受けるのは当たり前のようになっている⁷⁾。一方、本県の平成 23 年度の子宮頸がん検診受診率は 22.6% と全国の 23.9% をやや下回っており⁸⁾、国が目指す受診率 50% には遠い状況にあり、受診率向上が、がん対策における一つの課題となっている。

このような中で当センターでは、生活習慣病予防に関する調査研究として子宮頸がんを取り上げ、子宮頸がんの早期発見のための検診受診率の向上を目指した研究を行った。特に、これからの世代を担う若い女性の検診が鍵を握ると考え、20 歳から 39 歳までの女性を対象に、子宮頸がん検診に関する意識調査を行った。方法としてはフォーカスグループインタビュー法^{9,10)}を用い、サービスの主体である住民の生の声を直接聞くことによる質的なデータを収集分析し、検診対象者の考えや受診を妨げている要因及び

課題を明らかにすることを試みた。今回は、子宮頸がん検診に関する若い女性の意識について調査し分析した結果を報告する。

2. 方法

2.1 対象

秋田県内 3 地区の 20 歳～37 歳までの女性（平均年齢 26.0 歳）28 名

＊子育てママグループ（以下、ママ）：A 市に在住する 27 歳～37 歳までの女性 7 名

＊会社員グループ（以下、会社員）：B 社に勤務する 24 歳～34 歳までの女性 7 名

＊大学生グループ（以下、大学生）：C 校に在学する 20 歳～21 歳までの女性 14 名

平成 24 年 2 月に、各会議室及び教室で実施した。

2.2 方法

2.2.1 事前準備

①対象者選定

a.事前に A 市、B 社、C 校の保健師及び教諭へ本研究の趣旨を説明し、フォーカスグループインタビューへの協力依頼をした。

b.その際、パンフ「関係機関へのフォーカスグループインタビューの協力をお願い」を活用した。

c.保健師及び教諭が、パンフ「参加者の皆様へのお願い」を用いて参加者を募った。

d.フォーカスグループインタビューの趣旨を理解し、同意の得られた者を対象者とした（同意書提出）。

②スタッフ用資料として「子宮頸がん検診受診率向上に関するフォーカスグループインタビュー（FGI）の手引き」を各グループに合わせて作成した（資料：手引きの一部を抜粋）。

2.2.2 フォーカスグループインタビューの実施

①フォーカスグループインタビューの手引きに基づき、司会者（執筆者）の進行により約 90 分間のデータ収集¹¹⁾を行った。

②導入のために「自己紹介カード」及び「子宮がん〇×クイズ」を活用した。

③司会者は、参加者が自由に発言し、かつ効率よく討議が進むよう時間配分に留意した。

2.2.3 発言内容の録音

参加者の承諾を得た上で、会話を 2 台の IC レコーダーに録音した。

2.2.4 フォーカスグループインタビューの

テーマ「子宮頸がん検診の受診率をアップさせるには！」

インタビューの質問項目は次のとおりである。

- ①子宮頸がんに関する受診者の行動
- ②子宮頸がんに関する未受診者の行動
- ③子宮頸がん及び子宮頸がん検診に関する情報、啓発
- ④子宮頸がん検診に関する社会環境整備

2.2.5 発言内容をデータ化し逐語記録を作成

発言内容を「フォーカスグループインタビュー逐語記録と分析シート」に入力し電子データ化した。

2.2.6 データの整理と分析

データ（発言内容）を整理し、分類表にそって重要アイテム（意味のある項目）を抽出し、重要カテゴリー（見出し）に体系化し、質的分析¹⁰⁾を行った。

2.2.7 報告と公表

グループ別の報告書を作成し各協力機関へ送付した。全体の報告書を関係機関へ送付し当センターのホームページ上に公表した。

2.2.8 倫理的配慮

参加者には文書及び口頭にて、子宮頸がん検診受診率向上のための意識調査を、フォーカスグループインタビューの手法を用いて行うことを説明した。実施にあたりインタビュー内容を録音し、それを逐語録にすることについて、また、個人情報保護するため氏名を表記しないことを約束し参加者の同意を得た。

3. 結果

結果は参加者の生の言葉をできるだけそのまま用いて記述する「記述分析法」とした。また、複数意見や類似した言葉は統合して分析した。

子宮頸がん検診の受診歴については、子育てママグループでは 7 名全員が受診有、会社員グループでは受診有 4 名・無 3 名、大学生グルー

ブでは受診有 3 名・無 11 名であった。

3.1 子宮頸がん検診に関する受診者の行動

* 無料クーポン券による受診

ママ：無料クーポン券でたまたまタイミングよく受けられた。ラッキーだった。

ママ：5 歳毎の無料クーポン券をもっと増やしていけば、受診する人は徐々に増えていくと思う。

大学生：無料クーポン券が届きそれを利用して受診した。（大学生では 8 人に届き、3 名が受診した）。

* 妊婦健診による受診

ママ：子宮頸がん検診を初めて受けたのは 25 歳（他には 26 歳，29 歳）で妊婦健診の時に受けた。ついでにやった方がいいと医師が言うので受けた。

ママ：妊娠を望んだ時に産婦人科で受けて、その後は妊婦健診で受けた。

ママ：結婚をきっかけに受けた。妊娠をきっかけに受けた。特に抵抗なかった。

* 家族・友達等の勧め

ママ：親や周りから受けた方がいいよ、と言われて受けた。子どもはその時は親に見てもらった。

会社員：初めて受けたのは 2 年前。友達と婦人科系の話になることがあって、二人で相談して受けてみた。

大学生：みんなが受けるなら受けた方がいいかなと思う。自分だけだったら受けたい気持ちは半々。

* 定期検診，予防のため

会社員：結婚してからは、子供が欲しいこともあって産める身体でいたいと思って、真面目に定期的に受けている。最初の妊娠から定期的に毎年受けている。

会社員：検診の時期を忘れそうになるので最初に受けたのが 7 月だったから、私は 7 月は検診を受ける月間って自分で決めている。

* 職場検診で

会社員：前の会社では、検診車が来ていたので集団検診で受けた。

会社員：職場でみんなやるから私もやろうって、感じ。

会社員：検診の時になってしまえば覚悟が決ま

る。

* 自覚症状で医療機関受診時

会社員：23 歳の時に生理が急に多くなって不正出血みたいな感じで、産婦人科を受診した。その時に一緒に婦人科検診受けたほうがいいんじゃないですかって、医師に言われて受けた。

会社員：私は最初、婦人科系の不調があったので行くようになった。実際、受けるのにもあんまり抵抗ない。何回も受けたので。

3.2 子宮頸がん検診に関する未受診者の行動

* 面倒くさい，億劫だから，何となく

会社員：入社した直後は面倒くさくて行かなかった。

会社員・大学生：正直，面倒くさい（複数人が同意見）。

会社員：面倒くさがりだから、最初の一回をどう受けるかがハードルとしてある。

* 怖いから

会社員・大学生：子宮がん検診って何をやられるかが分からない。だから行きたくない。ちょっと怖い。

* 忙しいから

会社員：忙しくて予定もわからない部署にいたこともあるので・・・。やらなきゃいけないんだろうなと思いつつやってない。

大学生：年末は学校が忙しくていけなかった。

* 自分のスケジュールに合わない。タイミングを逃した

会社員：無料クーポン券がちょうど去年届いた。1 年位の有効期限あったが、油断していて受けられなかった。

会社員・大学生：友達が行くなら自分も行こうと思っていたが、タイミングがあわず行かなかった。

* 自分のことだと思わない

会社員・大学生：自分のことだと思ってない、というのにちょっと反省している。

* 忘れてる

会社員・大学生：30 歳の時に秋田市から無料クーポン券をもらっているはずなんですけど、今、E さんが言って初めて思い出したくらい。そういえばもらってたなという感じ。

3.3 子宮頸がん及び子宮頸がん検診に関する

情報，啓発

* 子宮頸がん検診の知識の有無，内容

ママ・会社員：「まさか自分が！」という思いがどこかにあって，どこか人ごとの気がしている。

会社員・大学生：「子宮頸がん検診は二十歳過ぎてから！」っていう意識がなくて，今，話を聞いていて二十歳からこんなに増えているのかとびっくりした。

会社員・大学生：ちゃんと受けなきゃいけないだよ，っていう情報が 20 歳代のうちに欲しい。今まで公の場でそういう話を聞く機会がなかった。

会社員：最近やっと乳がんのコマーシャルとか見るようになったけど，まだ子宮頸がんってあんまり見ない。触れにくい話題ではあるんでしょうけども子宮がん検診の情報をもっと知りたい。

会社員：乳がんの場合は，進行するとおっぱいとらなきゃいけないみたいなイメージがあって，やばい。子宮頸がんなら「私，別に子供いらないから関係ないわ！」とかちょっと思ったりして。

会社員：子宮頸がんって見えないし，軽く見てしまう。

大学生：実際かかった人から話を聞けると，リアルな感じで大変さとかの実感が持てると思う。

* 子宮頸がん検診の情報の有無，内容，提供方法

ママ：プライベートな事だから，広報で「中学生にワクチン接種するようになった」のを見てそれで終わり。人と話すような話題ではない。

ママ：「早期発見で簡単に治せますよ」というと，どうせかかっても簡単に治るんだと，軽く考えて，逆効果でないか。

ママ：確かに，早期発見で治ると言われると，心配しないよなあ。

ママ：早く見つければ治る，はなんとなく危機感ないし，心配しないことにつながるのではなか。

ママ：ママさん達が行く所（例子育てサークル等）にでも，市の検診受けた中から，何人見つかりましたという身近な情報を貼っておけば見ると思う。ちょっと怖いんだけどね。

会社員・大学生：何をされるのかと，どれくらい時間がかかるのか。そういうことが分かれば，ある程度予定も立てやすいし心の準備もできる。

大学生：二十歳になったら検診を受ける事を知らなかった。無料クーポン券で知った。

会社員・大学生：検診で具体的にどういうことをするのかという資料はクーポン券には入ってこなかった。

* 啓発・広報の方法，インターネット

ママ：周りで子宮頸がん検診へ行く人がいる，というクチコミの影響が大きい。

ママ：気になる時にネットで調べる。ホームページで検索できるのが，若い人達には便利がいい。

会社員：「何月は何とか月間」，「この月は皆さん，検診を受けましょう！」のようなアピールをするのもいいかな，と思う。

会社員：20 歳代だと声かけるのがかえって悪いかんと思ったりして，私も遠慮してたなあ今まで。（保健師）

* 教育方法，子どもや親の意識，母子手帳

ママ・会社員：親が子宮頸がん検診を受けさせるような態勢を作る。予防接種のように受けて当たり前という態勢を作る。

ママ・会社員：親子で一緒に受ける。大きくなったらお母さんと一緒に受ける。

ママ：母子健康手帳に子宮頸がん検診の欄があれば意識は変わる。小さい頃からそういうものだ，と意識を高めるとありふれたことになる。そうすることで 20 歳代になった時に，母子手帳にあったのと，抵抗なく受けいれやすい。

会社員：親は「検査はすぐ終わるし，受けるものだ」と，娘に強引にすり込んでおくのが大事。大学生：高校生だとその前に経験しちゃう人もいるので，その前に知っておいた方がいいと思う。

* 自分のことだと思わない，関心ない

会社員：子宮頸がんって言葉聞いたことあっても，自分にも関わるんだって全然分かんなかった。

会社員・大学生：自分自身で子宮頸がんが分からず，まだそんなにがんというものに，ぴんときていない。身近な問題だととらえていない。

大学生：自分から進んで受けたらいい気持ちに

はなっていない。半強制的になら受けるかも。

3.4 子宮頸がん検診に関する社会環境整備

* 子宮頸がん検診の日程、時間

ママ：自分で予約して医療機関に行くよりは、市で決められた日に受ける方がいい。病院の予約も意外に面倒だ。

ママ：時間をかけずに地元で受けられるのもいい。

ママ：子宮頸がん検診を毎週でなくても土日どこかでやってくれたら、託児に預けなくても主人に子どもを預けて検診を受けられる。

ママ：検診時間の12時から13時は、子どもが眠くなる時間帯なので困る。

会社員・大学生：貴重な休みに検診に行くのも嫌だなあって感じ。

会社員・大学生：検診の期間が長すぎると逆に、「あとでもいいやっ！」となっちゃうので、「この期間なら夜遅くまでとか、土日もあります」とか期間限定であれば、帰りに行くとか朝ちょっと寄ってくとかできる。「サービス期間」的な、そんな検診があればいい。

大学生：できれば18時頃までやっていてもらえると助かる。学生タイムみたいな検診があればいい。

会社員・大学生：土日に、すぐ終わる検査のために、わざわざ着替えて出かけたくないし。土日よりは、平日遅くまでやっていて欲しい。

* 子宮頸がん検診の会場、地区

ママ：デパートだったら、家族で買物に行った時に、主人に子どもを預けて検診を受けられる。

ママ：「△△」がいい。遊ぶ所もあるし。しかし、検診バスはちょっと離れた所においてほしい、さすがに正面は嫌だなあ。

会社員：この職場の近辺には検診車を置くスペースもあるし、「□□地区で子宮頸がん検診を、何日から何日までやりますよ」というように増やしたらどうか。

会社員：B社ひとつの会社のため、ということではなく、近辺の会社の方々等を、広く対象としたらどうか。

* 託児、家族の協力

ママ：託児があれば気軽に市の子宮頸がん検診が受けられる。

ママ：託児の予約の連絡をするのが煩わしい。

予約しないでパッと行って、パッと見てくれるのがいい。

ママ：託児とか受ける方の希望に配慮して、整っているんだったら、身近な所（地元）で受けられるメリットはある。

ママ：託児付き検診なのはとても魅力です。

ママ：夫の協力、大丈夫、あります。

* 集団検診

ママ：バスで受けた。医療機関に行く時間がとれなかったから。おばちゃんばかりだった。

ママ：すっごく、浮いている。20歳代、30歳代の若いお母さんたちは、数えるほどしかいなかった。

ママ：バスで受ける時、「20歳代から30歳代限定」というように、年代別で日にちが分かれていれば、行きやすくなると思う。

ママ：「子育て世代限定！」とか、いいかもね。

ママ：確かに若い世代限定だと、雰囲気は良く、行きやすくなるね。

会社員：検診バスでも一人ずつ別々なのでいい。前の会社でも検診車が来て受けていたので、別に抵抗はない。

会社員：会社員は集団検診がいいと思う。

会社員：自分だけだと行かなきゃな、と思うのと同時に面倒くさいなと思う。だから集団検診がこの先あったら利用するだろう。

会社員：職場や地域で検診を受けられる機会増やしてもらえばいい。最初の1回目を集団でやっちゃえば後は自分の好みで、集団に行ったり、個人で病院探して行ったりとか。最初の入口が肝心でその後はいろんな形があっていいかな。

大学生：学校健診でみんなが受けるのだったら自分もやる。受けやすいし。

* 医療機関検診

ママ：病院の予約が満杯で、ずっと先の予約になりそうだったので、目処がつかないのでやめた。

ママ：出産した病院ですずっと検診を受けている。そこは予約もいらない。混んでいなければ15分位で終わる。

ママ：私はこれからも個人病院で受けるかな？バスでの検診だと、ちゃっちゃとやって終わり、という感じがするので、医療機関検診がいいという感じがする。

会社員：自分で病院を探して自分で予約をして、もし平日だったら会社にも言わなきゃいけないし、かなりいろんなステップを踏まなきゃいけない。だから面倒だ。

*産婦人科・医師

ママ：産婦人科に行くというのは、若い人達には抵抗があると思う。結婚していない女性が産婦人科に行くのは、勇気がいること。

ママ：予防接種や子宮頸がんワクチンとセットで、子宮頸がん検診も受けるようになればいい。

ママ：婦人科と内科が一緒になっている病院がもっと増えるといい。小さい時からかかっていると連れて行きやすいし、検診も受けやすい。

ママ・会社員・大学生：先生が男性だというのが嫌だ。女性のお医者さんがいるところがいい。

ママ・会社員：私はいつも行っている所なので、男性でもいい。初めて行く時は確かに抵抗あると思う。

ママ・会社員：先生の性別じゃないのでうまい先生に行った方がいいと思う。私も以前は性別重視で絶対男の先生は嫌だったんですけど・・・。

*検診料

ママ：個人医で受けた時は3～5千円かかった。去年は無料クーポン券がきたのでラッキーだった。

大学生：お金かからないのがいい。無料がいい（大学生グループは全員）。

*無料クーポン券

会社員：去年、25歳で秋田市の無料クーポン券がきたが、結局受診できなかったの、この思いを絶対に伝えたいと思って今日参加した。

会社員：すごい混んで、無料クーポン券の締め切り間際だったので、待ち時間もすごい長くて、大変だった。

会社員：なかなか都合が合わなくて、次次って言っている間に、クーポン券の期限が終わってしまった。

会社員：無料クーポン券の期限は「誕生日から前後2ヶ月」とか「もうちょっと期間短い方」が、逆に行かなきゃっていう気になるのかなと思った。

会社員：無料クーポン券が送られてきて、二十歳で受けなければいけないと知った。結構お金かかるから、無料クーポン券で受けた方がいいと思って受けた。

*受診しやすい（職場）環境、制度等

会社員：この時間のこの場所に行ってくださいって、会社側から言ってくれてると、受けなきゃという意識になる。

会社員・大学生：強制的に、「この日に行きなさい」とか「行こうよ」と言ってもらった方が行くと思います。

会社員：まず会社で検診をやっちゃうといい。

「皆で受けるぞ」という気持ちが高まる。

会社員・大学生：自分では時間が確保しづらいので。会社（学校）のお膳立てというか、やってもらえればいい。

会社員：今、忙しい部署にいるので、貴重な土日の休みを潰したくない。できれば出勤日に、上司から「会社の方針として受けることになってるから、その時間は行って来い。」と言われた方がいい。平日の検診の時間が確保されるのであれば行きたい。

会社員：働き盛りで忙しい人ばかりなので、会社の方でやってくれないと受けないでしまう。ましてや小さい会社だと、検診ができないと思う。県とかから働きかけをしてくれると、会社の方でも気運が高まるのでないか。

4. 考察

参加者から得られた内容を総合的に検討し主な対策について考察した。

4.1 集団検診及び医療機関検診の充実について

「集団検診を受けたい」という希望が3グループともに多かったことは意外な結果であった。プライバシーが尊重される時代でありながら、それよりも時間が優先され忙しい時代だからこそ身近な所で検診を受け、自分の時間を効率的に使いたいという意識の現れと思われた。河合らは、職場検診は子宮頸がん検診を受診するよい機会になっている。自分の健康管理として受診する者も多く、健康への関心の高さが受診行動を高める要因になっている¹²⁾と報告している。また、子宮頸がん検診の初受診や定期受診を促すうえで、自治体や職域での検診の実施は重要な役割を果たしていることが確認されており¹³⁾、今後は、地域、職場、学校等における集団検診並びに医療機関検診の充実を図り、若い世代の女性が受診しやすい、時代に合わせた検診の社会環境を整えていくことが大切である。

以下に今回の研究から得られた具体的な対策案を提示する。

- * 地域においては、既存の検診を元に、子育てママさん検診、若い女性限定検診、予約なし託児付検診、遊びついで・買物ついで検診等のように、若い女性に配慮（ターゲットに）した検診を工夫し、地元や身近で気軽に受けられるメリットをアピールし、地域に密着した柔軟な検診体制を整備していくことが望ましい。
- * 職場や学校においては、平日の集団検診の増大や、経営者の意識を高め企業が自社の女性職員の検診を勧奨する等、組織（職場、学校等）全体の方針として受診を推奨することにより、多くの女性が受けやすくなるような社会環境を整えていくことが望ましい。
- * 医療機関検診においては、平日夜遅くまで検診可能な医療機関の設定や、またその検診期間の設定、仕事や学校帰りに気軽に受けられる「仕事帰り検診」、「学生タイム検診」等、より時代に合わせたサービスを盛り込み、受診者の拡大を図ることが望ましい。

4.2 啓発普及・広報の強化について

子宮頸がん及び子宮頸がん検診について知らないという人が会社員や大学生では多かった。知らないから受けないという人も複数人いた。このことは、子宮頸がんの知識や制度を知らない人の方が受診行動に至っていない^{12,14)} ことと一致していた。また、今回の調査では、早期からの健康教育をすることの重要性について3グループが同様に述べていた。川本は、思春期の認識により、将来の検診行動意向を生む可能性が示唆されることから、子宮頸がんが自分に無関係な病気ではないことをできるだけ早い段階で認識させるべきである¹⁵⁾ と述べている。今後は、若い女性への早期からの健康教育及び啓発普及、広報の強化を図ることが大切である。

具体的な対策案として

- * 母子健康手帳の活用や予防接種の機会を利用して、本人と母親への啓発を早期から働きかけていくことが大切である。
- * 中高校生や20歳代の思春期から青年期にかけて、教育現場での情報提供や啓発する機会を度々設けることが望ましい。

* 結婚や妊娠時の医師等の勧めが受診につながっていることから、保健・医療従事者等の専門家の協力により、子宮頸がんの情報提供及び受診勧奨を行うことが大切である。

* 子宮頸がん検診の内容、方法、所要時間等、受診行動につながるより具体的な情報を提供する。しかし、過剰な恐怖心や、逆に安易な考えを持たないような工夫も必要である。

* 子宮頸がんを自分自身の問題としてとらえられるよう、より身近な罹患データや情報を県民の目に触れやすい場所に掲載する。かつ広報やホームページ、携帯電話等の様々な情報手段により、県民がより利用しやすい情報提供を心がけることが必要である。

* 「若い女性も地元で検診を受けた」というクチコミが検診受診に大きく影響するため、集団検診を好印象につなげるための工夫や実績づくりが大切と思われる。

4.3 無料クーポン券の継続と充実について

無料クーポン券は子育てママ層では好評であるものの、会社員、大学生での利用は不十分であった。野口らは、検診無料券に受診場所の指定や期限があることから無料券を使って受診できず諦めてしまう者も少なくない¹⁶⁾ と述べており、このことは本研究でも同様に見られていた。また、無料券が配布されるだけでは認識はまだ薄く定期的に注意喚起を行っていくことが必要である¹⁶⁾ と報告しており、今後は無料クーポン券の確実な利用と健康意識を育む重要なツールとして考えていくことも大切と思われる。具体的な対策案として

* 県民の経済的負担を軽減するためにも無料クーポン券は有意義であることをアピールし、今後も無料クーポン券の継続と利用しやすいサービスを工夫していくことが必要である。

* 初めての検診が鍵を握ることから、20歳から30歳代の若い女性に関心を示す具体的な情報を無料クーポン券に盛り込み、確実な受診行動につなげていくことが大切である。

* 「二十歳で検診を受ける！」ことを無料クーポン券で初めて知る人も多いことから、無料クーポン券を検診受診につなげる意識醸成の一つのツールと考え、確実な利用につなげるのが大切である。

5. まとめ

1. 集団検診及び医療機関検診の充実を図り、若い女性が受診しやすい、時代に合わせた検診の社会環境を整えていくことが必要である。
2. 早期からの健康教育が重要であり、若い女性が関心を持ち受診行動につながる啓発普及及び広報の強化を、関係機関と連携をとり推進していくことが大切である。
3. 無料クーポン券により健康意識の醸成を図るとともに、確実な利用につなげることが大切である。

最後に、フォーカスグループインタビュー終了後の大学生の感想から、木下¹⁷⁾の報告にあるように、参加者同士が意見を交わすことにより、子宮頸がんや検診受診行動に対する新たな気づきや、考え方の変化があったことが分かった。そして、今回の調査でもフォーカスグループインタビューへの参加そのものが、子宮頸がんを理解し検診受診行動へ影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

参考文献

- 1) 秋田県健康福祉部：平成 23 年秋田県衛生統計年鑑，2013 年 3 月。
- 2) 秋田県：第 2 期秋田県がん対策推進計画，2013 年 3 月。
- 3) 厚生労働省：がん対策推進基本計画，2007 年 6 月。
- 4) 国立がん研究センターがん対策情報センター：子宮頸がん検診の勧め，
http://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/uterine_cancer.html。
- 5) 三澤俊哉：子宮頸がんの低年齢化について，名古屋掖済会病院健康増進キャンペーン，2010 年 7 月。
- 6) 厚生労働省：平成 25 年度がん検診推進事業の実施について，平成 25 年度がん検診推進事業実施要綱，2013 年 5 月。
- 7) 日経 BP 社：子宮頸がん検診の受診率を高めるために日本は何をすべきか，
<http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/report/201004/100467.html>，2010，10。
- 8) 厚生労働省：平成 23 年度地域保健・健康増進事業報告，子宮がん検診対象者数・受診者数・受診率，市区町村別。
- 9) S・ヴォーン，J・S・シューム，J・シナグブ：グループ・インタビューの技法，東京，慶応義塾大学出版会株式会社，2002 年 10 月。
- 10) 安梅勅江：ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開，東京，医歯薬出版株式会社，2004 年 6 月。
- 11) 川崎千恵，服部真理子，渡邊洋子，他：血糖自己測定を糖尿病境界域へ用いる意義と効果をもたらす要因に関する検討ーフォーカス・グループ・インタビューによる質的分析ー，日本公衆衛生雑誌，2009，56，12，875-882。
- 12) 河合春奈，高山紗代，今井美和：子宮頸がん検診の受診行動に関わる因子の検討，石川看護雑誌，2010，7，59-68。
- 13) 子宮頸がんから女性を守るための研究会：子宮頸がん検診に関する調査報告書要約版，2008 年 3 月。
- 14) 平井里香子，原川恵子，渡邊万里子，他：子育て中の母親の子宮頸がん検診に関する意識調査，第 49 回静岡県公衆衛生研究会，2013 年 2 月。
- 15) 川本彩多利：高校生に向けた子宮頸がん予防啓発プロモーション研究，神奈川，慶応義塾大学湘南藤沢学会，2011 年 3 月。
- 16) 野口真由，杉浦絹子：看護系大学の女子大学生がもつ子宮頸がん予防に関する知識と意識の現状，三重看護学誌，2011，13，131-139。
- 17) 木下ゆり：フォーカスグループインタビューによる保健医療を学ぶ学生の喫煙意識の質的分析，静岡英和学院大学紀要，2010，8，223-231。

資料 子宮頸がん検診受診率向上に関するフォーカスグループインタビュー（FGI）の手引き

大学生グループ（一部抜粋）

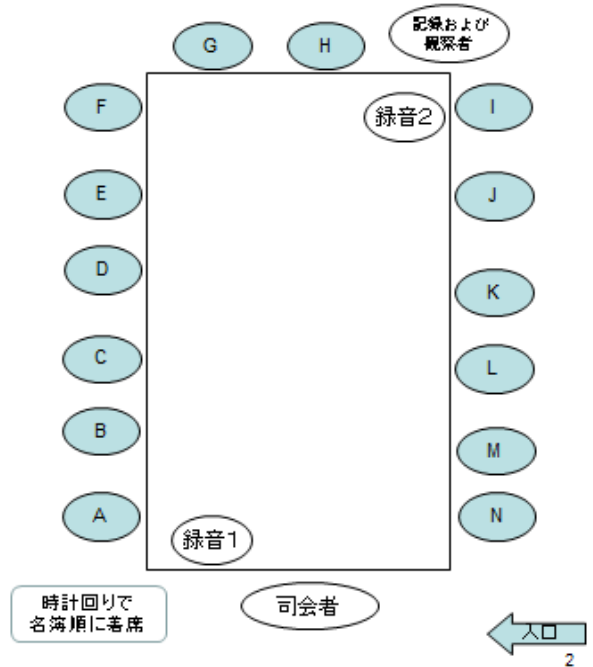
子宮頸がん検診受診率向上に関する
フォーカスグループインタビュー
（FGI）の手引き

H24. 2. 16(木) C校大学生 14名

C校 教室
14:35～16:05秋田県健康環境センター
保健衛生部 健康科学・管理班

1

会場のレイアウト



開会、FGIの実施、閉会までの一連を、司会者が努めます。

〈次第〉

20歳からはじめる子宮頸がん検診
－受診率向上のために！－
（フォーカスグループインタビュー）日時 平成24年2月16日(木)14:35～16:05
会場 C校 教室
主催 秋田県健康環境センター保健衛生部
健康科学・管理班 (tel. 832-5005)

□開会

●フォーカスグループインタビュー（FGI）

- オリエンテーション
○自己紹介カードと子宮がん〇×クイズの記入
○自己紹介 参加者14名
※参加したきっかけ

■討論内容

- 20歳からはじめる子宮頸がん検診 あなたは知っていましたか？
- 子宮がん検診を受けたことがありますか？
- 子宮がん検診を受けないのはどうしてですか？
- 子宮がん検診のどのような情報を、どのような方法で提供して欲しいですか？
- どうしたら気軽に検診が受けられると思いますか？
- まとめ

□閉会

★★ 自己紹介カードと、子宮がん〇×クイズを記入してください。
終了後に、提出してください。 ★★

3

自己紹介カード

☆自己紹介カードと、子宮がん〇×クイズにお答えください。
★自己紹介でお断りしていただくのは、「氏名と年齢」を記入してください。
☆この用紙は、終了後に提出してください。

- 氏名 [] ○ 番号 []
- 年齢 [] 歳
- 職業・仕事 []
- 参加したきっかけ []
- 未婚・既婚(以前既婚含む) ○ 出産経験 : ある・ない
- 月経状況 順調・不順
- Q1 あなたは子宮がん検診を受けたことがありますか？
- ある
 - 毎年、2年毎、[] 年毎
 - 初回受診年齢 [] 歳
 - ない
- Q2 あなたはこれから子宮がん検診を受けようと思いますか？
- 受けようと思う
 - 毎年、2年毎、[] 年毎
 - 理由 []
 - 受けようと思わない
 - 理由 []
- Q3 あなたは子宮がんになると思いますか？
- 非常に思う
 - まあ思う
 - あまり思わない
 - 全く思わない

4

子宮がん〇×クイズ 〇×をつけてください

- Q1 子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんの2種類がある
【子宮がんの種類】
- Q2 子宮がんは早期発見・早期治療により、ほぼ100%治る
【子宮がんの予後】
- Q3 子宮がんの原因の一つに、HPV(ヒトパピローマウイルス)感染がある
【子宮頸がんの原因】
- Q4 子宮頸がんの発症年齢が若年化している
(20代からの発症が増加) 【子宮頸がんの発症年齢】
- Q5 子宮頸がんの好発年齢は40～50歳である
【子宮頸がんの好発年齢】
- Q6 子宮体がんの原因として女性ホルモン(高エストロゲン状態)が関係している
【子宮体がんの原因】
- Q7 子宮体がんの好発年齢は50～60歳(閉経後)である
【子宮体がんの好発年齢】
- Q8 子宮がん検診は20歳以上が対象である
【子宮がん検診の対象年齢】
- Q9 子宮がん検診を2年に1度、受けたほうがよい
【子宮がん検診の受診間隔】
- Q10 子宮頸がんの初期は、ほとんど無症状である
【子宮がんの症状】
- Q11 ワクチンを接種すれば、子宮頸がん検診を受けなくても大丈夫である
【子宮がん検診とワクチンの必要性】
- Q12 あなたは子宮がんの知識がどの程度あると思いますか
【子宮がんの知識】
- 十分ある・ある程度ある・あまりない・全くない

5

情報1 子宮頸がんとは？

子宮がんには子宮の入り口(頸部)にできる「子宮頸がん」と、子宮本体(体部)にできる「子宮体がん」があります。発症する場所だけでなく、その原因や発症しやすい年齢も異なります。

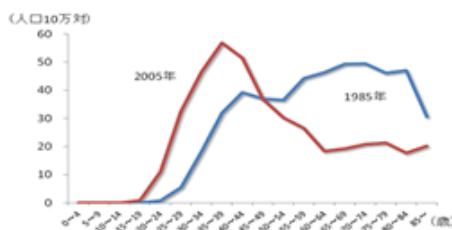


	子宮頸がん	子宮体がん
自覚症状 (初期)	無症状	不正出血 褐色のおりもの(帯下)
原因	HPV (ヒトパピローマウイルス) 感染	女性ホルモンの異常
発症しやすい 年齢	30～40歳代 20歳代急増	50歳代
発見のタイ ミング	定期的な検診	不正出血 褐色帯下

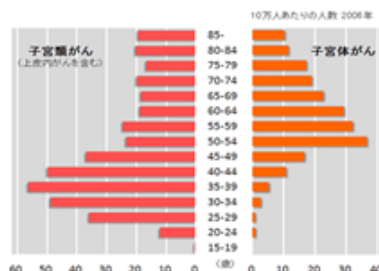
6

情報2 子宮頸がんの発生率
がん情報サービス ganjoho.jp
「がん検診の勧め」より 国立がん研究センターがん対策情報センター

1. 子宮頸がん(上皮内がんを含む)発生率の推移



2. 部位別・年齢別にみた子宮がん発生率

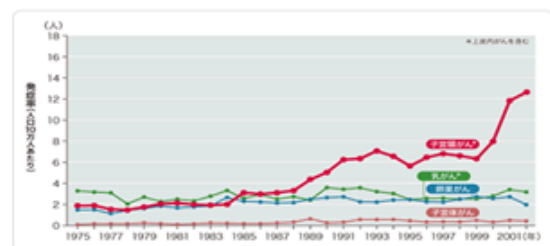


子宮がんにかかる人は年間約18,600人で、このうち子宮頸がんにかかる人は、約9,000人います。

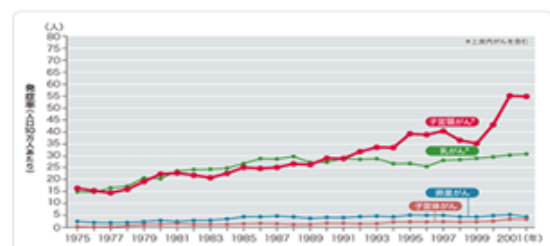
7

情報3 20～39歳日本人女性における
女性特有のがん発生率の推移

1. 日本人女性(20～29歳)の各種がん罹患率の推移(10万人あたり)



2. 日本人女性(30～39歳)の各種がん罹患率の推移(10万人あたり)



性交開始年齢が早まった
ことで、HPV感染が若年
化しています。

国立がんセンターがん対策情報センター、
地域がん登録全国推計値
(地域がん登録による罹患全国推計の方法)

8

情報4 女性のがん死亡数・率の推移 (秋田県) S50～H21年

(人)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
乳がん	53	47	54	60	78	91	83	84	82	83	108	105	114	109	110
子宮がん	68	67	56	50	32	30	59	54	65	58	54	45	53	51	56
卵巣がん	-	-	-	-	80	39	54	54	48	59	55	56	62	48	62

日本では子宮がんで亡くなる人は年間5,900人で、このうち子宮頸がんの死亡者数は、2,700人となっています。(がん情報センターより)

本県では
S42年から
子宮がん
集団検診
開始。

1. 部位別死亡数 秋田県 (人)



2. 子宮頸がん死亡率 秋田県と全国 (人口10万対)



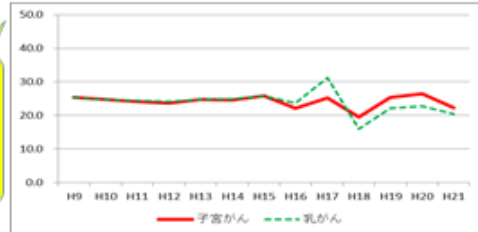
9

情報6 がん検診受診率の推移 (秋田県) H9～H21年

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
子宮がん	25.4	24.7	24.2	23.6	24.7	24.6	25.9	22.2	25.2	19.5	25.4	26.5	22.3
乳がん	25.2	24.7	24.5	24.2	24.8	24.9	25.9	23.7	31.2	15.9	22.1	22.7	20.4

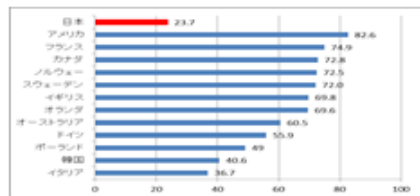
(出典)厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告

1. 子宮がん乳がん検診の受診率 秋田県 (%)



目標は
50%
受診率
22.3%
と低い

2. 各国の子宮頸がん検診受診率 (%)



欧州では性感染症の有無に関わらず、かかりつけの産婦人科医に行く習慣がある

欧州では、回答者の約6割が18歳までに、約2割は15歳以前に検診を受けていた。

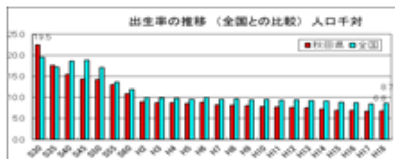
OECD加盟国の子宮頸がん検診受診率(2007年10月発表)

10

情報7 子宮がん検診を受けて、将来は 安心して子どもを生み育てよう！

■秋田県の出生率

- H22年の出生数は6,688人で、H21年の7,013人より325人減少した。
- 出生率(人口千対)は6.2で、H21年の6.4より0.2ポイント減少し、全国では最下位であった。(全国平均 8.5 全国順位47位)
- 合計特殊出生率は、1.31(全国平均1.39 全国順位41位)



■子宮頸がん検診受診率

- 2007年～5年間で、50%達成を目指している(国の指針)。
- 2年に1回の受診の意図：2年に1回でも、同様に死亡率減少効果が期待できる上に、できるだけ多くの人が受診できるように、受診の機会を確保することにした。
- 日本の検診率は20%台だが、米国は80%を超えている。カナダ、フランスは70%台。
- 特に、20歳代の若い人の検診受診率が低く、約70%が未受診。今後、受診の拡大を図る。
- 欧米では、教育が国家レベルで徹底されている。若い頃から、抵抗なくかかりつけの産婦人科医に受診している。
- ※レディーのたしなみ という感覚

- 20～30歳代の若い世代の女性は、2年に1回の検診が望ましい
- 早期にがんを発見できれば、子宮を失うことなく、ほぼ100%の11 治療が期待でき、妊娠や出産にも影響はない。

情報8 がん情報に関するホームページ

●がん情報サービス ganjoho.jp

国立がん研究センター がん対策情報センター

★是非、見てください

平成21年度 第2回市民向けがん情報講演会

『女子大生が学ぶ『子宮頸がん』にならないためのこと』『がんの予防についてできること』

がん征圧 Campaign ～子宮頸がん征圧イベント2009

～愛する人と向き合う未来 内 講義

平成21年11月14日(土) 明治大学和泉キャンパス

第2校舎6番教室にて開催

『当日のビデオ映像』はこちらから をクリックしてください。

<http://ganjoho.jp/public/event/2009/20091114d.html>

●LOVE49

みんな子宮から生まれてきた <http://www.love49.org/>

●秋田県健康推進課 がん対策推進室

美の国あきたホーム>組織別案内>健康福祉部>

健康推進課がん対策室

本日は、お忙しいところご協力いただきまして
ありがとうございました

秋田県健康環境センター保健衛生部
健康科学・管理班 tel 832-5005

12